

TPP 閣僚会合終了後の甘利大臣記者会見の冒頭発言

日時：平成 26 年 2 月 25 日（火）18：40～

場所：シンガポール・シャングリラホテル 3 階「Banyan」

先ほど TPP 閣僚会合が終了した。4 日間にわたる閣僚会合を通じ、各分野に残された困難な課題について閣僚間で真摯な交渉を行った。12 月の閣僚会合で示された「着地点」の多くについて政治的な判断を下し、課題の解決へ向け交渉官へ指示を出した。

ルール分野では多くの分野で相当の進展があり、これまで難しい課題が残されていた分野についても大きな進展があった。また、交渉官に対し解決へ向けた具体的指示が出された。

また、市場アクセスについては、各国が二国間交渉を通じて物品だけでなく、サービス、投資、政府調達、一時的入国など市場アクセス全般にわたって精力的に交渉を進めた。

我が国も、すべての交渉参加国と二国間の市場アクセス交渉を誠実にやり、いくつかの国と実質的な協議を進展させた。引き続きすべての参加国と交渉を継続する。相互に満足でき、TPP が目指す包括的でバランスのとれた合意を達成できるよう最大限努力したい。

農産品のいわゆる「重要 5 品目」については、一連のバイ会談や全体会合の場で、我が国には衆参農水委員会の決議があり、センシティブティがあることを粘り強く説明し、各国の理解を求めた。

また、TPP は、モノの関税撤廃だけではなく、サービス、投資、政府調達、一時的入国といった市場アクセス全般、更にはルール分野も含めた幅広い交渉であり、交渉分野全体で、包括的でバランスのとれた合意を目指すべきだという我が国の考え方を繰り返し強調した。

日米についてはフロマン代表と閣僚レベルで 2 回、協議を行い、その間、事務レベルでも折衝を続けた。双方の立場にはまだ隔たりがあるが、私とフロマン代表との会談を通じて、議論が深まったと思う。日米間の懸案の解決へ向け、事務レベルで引き続き折衝を続けさせる。

4 日間にわたる全体会合、バイ会談を通じて、各国が抱える政治的困難に配慮しながら、アジア太平洋地域に 21 世紀型の新しい経済統合協定を共に作っていかう、という共通の機運と信頼関係が醸成されたと考えている。交渉は最終局面が一番難しいが、交渉全体に方向感が出てきたと思う。

（以上）